

経営戦略の取り組み実績について

経営指標の目標値

<電気事業>

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

指標	現状 (R1～R4平均)	数値目標	概要
経常収支比率※1	132%	125%以上 (毎年度※2)	設備更新や地域貢献のための財源を確保します
水力発電 年間供給電力量	155,636 千kWh※3	175,000千kWh (R10(2028)年度末)	効率的な水運用や発電施設の更新等により供給電力量の増加を図ります
地域貢献※4	52百万円／年	5億円以上 (10年間総額)	電気事業で得られた利益を活用し地域に貢献します

R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
○R6年度決算 経常収益 1,706,153 千円（ 5.6 %） 経常費用 1,211,030 千円（ 2.1 %） 経常収支比率 140.9 % （ 4.7 ポイント） （ ）は対前年度比	R6年度は、風力発電設備の撤去など経常費用が増加したものの発電電力量が概ね計画どおりで水力発電の売電料金単価が増額したことから経常収益が増加し、経常収支比率は目標値を達成することができた。	(R6年度) 140.9%
○R6年度 実績値 162,560 千kWh ・対計画比 97.8 % （計画値 166,223 千kWh） ・対前年度実績比 100.5 % （前年度実績 161,725 千kWh）	・R6年度の水力発電供給量は、概ね年間計画値であったものの経営指標の目標値までは届いていない。 ・供給電力量増加の検討に向けて情報収集している。 ・設備停止計画の綿密な検討・作成に取り組んでいる。 ・河川流況を的確に捉え、効率的な水運用に努めている。	B
○地域貢献 総額 ・R6年度 29,407 千円 ・R1～R6 累計 277,721 千円 平均 46,287 千円	・R6年度の再エネ利活用事業費活用が伸びなかったことから、R1からR6年度までの実績額からの目標達成に向けては更なる取り組みが必要。 ・一方で、市町村への更なる支援に向けて財源の積立再開や支援拡充に努めている。	B

<工業用水道事業>

指標	現状 (R1～R4平均)	数値目標	概要
経常収支比率※1	114%	115%以上 (毎年度)	黒字経営を継続します
契約率※5	鏡川 44 % 香南 34 %	50%以上 (R10(2028)年度末)	給水量の維持等に努めます
鏡川工業用水道 送配水管路の耐震化率※6	20 % (R4 年度)	25%以上 (R10(2028)年度末)	更新により送配水管路の耐震性能を確保します

R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
○R6年度決算 経常収益 277,160 千円（ 0.4 %） 経常費用 249,516 千円（ 0.5 %） 経常収支比率 111.1 % （▲0.1 ポイント）	R6年度は、料金収入及び経常費用がR5年度から大きな変動がなく経常収支比率は前年同様、目標値に届かなかった。	(R6年度) 111.1%
○R6年度実績 契約水量 m ³ 契約率 %（前年度比） 鏡川 24,302 m ³ 43.6 %（▲0.2 ポイント） 香南 3,050 m ³ 38.1 %（ 4.4 ポイント） 合計 27,352 m ³ 42.9 % （ 0.4 ポイント）	<鏡川> R6年度の契約水量は、契約水量の見直しにより減量したユーザーが複数あった。また、R5年度中に廃止・見直したユーザーがあったことにより、前年度比でマイナスとなった。これらユーザー動向の変化は、主に業界の構造や需要の縮小など外的要因によるものであり、契約率低下への県としての対応は企業状況の情報収集に努めたものの対策が難しかった。 県としては既存ユーザーとの関係維持に努めるとともに、新規給水先の開拓や地場産業支援の観点からのアプローチを継続しており、安定的な給水体制の確立を行うことにより地域経済の支えを行っている。 <香南> R7年2月に1件の新規契約があり、契約水量が増加した。今後も、既存ユーザーとの情報交換を行い、地域産業との連携を強化しながら契約率の向上に努める。	B
・優先整備区間（配水管路 約1.5km）のバイパス整備について、管路更新計画の見直しを実施した。（R4年度） ・新たな管路更新計画案を作成し、ユーザーへの今後の動向調査及び意見交換会を実施した。（R4～R5年度） ・優先整備区間以外の送配水管路について、劣化診断を目的に試掘調査を行った。（R6年度）	・R4からR5年度にかけて、ユーザー動向調査や意見交換会を実施し、優先整備区間の管路更新方針案及び中長期的な事業計画を策定している。 ・R6年度に実施した管路試掘調査による劣化診断の結果、他区間の更新優先度が確認できた。	B

※1 経常収益÷経常費用×100。当該年度の料金収入等の収益で、人件費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標。

※2 水車発電機のオーバーホール等大規模修繕工事を実施する年度を除外。

※3 令和元年度から4年度までの平均供給電力量。

※4 ダム周辺環境整備事業交付金、物部川水源の森整備事業費補助金、公営企業局の森の管理及び地域振興積立金を活用した事業（再生可能エネルギー利活用事業費補助金及び一般会計への繰出し）を想定。

※5 契約水量÷給水能力×100。なお、香南工業用水道は計画給水能力の日量8千m³にて算出。また、契約率の現状は、鏡川、香南ともに令和4年度末時点の給水量から算出。

※6 香南工業用水道の耐震化率100%。経済産業省の資料では、全国の工業用水道事業における管路の耐震適合率は、令和3年度末時点で46.6%であり、令和7年度末までに60%にすることを目指すとされている。

電気事業

2/2

(3) 災害に強い体制の整備

取り組み名	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	目標
■豪雨災害や 南海トラフ地 震に対する管 理体制の強化	適切な事前放流の実施						各訓練 実施 (年間を 通じて)
	関係機関との連携強化						
	震災・放流対応訓練の実施とマニュアル等の見直し						
■施設の強靱 化	杉田ダムの水運用の実施						—
	事例研究及び対策検討						
			吉野予備電源設備更新 永瀬水圧管路外部塗装 永瀬・吉野・杉田 遮断器更新 永瀬水圧管路内部塗装 吉野洪水吐ゲート表面塗装				

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
○R6年度の実施状況 ・各種訓練等の実施 <震災>シェイクアウト訓練(1回) 職員安否確認訓練(1回) 震災対応訓練WG(発管)(9回) 震災対応訓練(参集訓練 7-11月) 新規配属者訓練 <ダム>事前放流通報演習 洪水対応演習 <ほか>発電機起動訓練(発電所現場) ・ダムの事前放流の態勢構築(11回)、 事前放流の実施(1回) ・物部川ダム予報連絡会(1回) 物部川ダム連絡会(1回) ・四国電力送配電との合同事故復旧訓練(9月) ・<発管>震災対応マニュアルの改正等 ・BCP制御所編の継続的見直し作業 ・HPでダム情報を公開中	・各種訓練を実施し、事故・震災等 への対応力の向上に努めている。 また、マニュアルの見直しを行っ ている。 ・降雨予測に応じ、出水に備えた態 勢を構築している。 ・洪水時操作を行った場合について 局内で振り返りを実施している。	A
・耐震等に留意した杉田ダムの水運用を実施 ・永瀬発電所取水ロスクリーン修繕工事の 実施(R1年度) ・永瀬・吉野・杉田 遮断器更新工事発注 (R6年度)	・杉田ダムの適切な運用を継続して いる。 ・施設の監視体制等の拡充により、 災害対策の向上を図っている。	—

(4) 再生可能エネルギーの推進と地域還元

取り組み名	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	目標
■再生可能エ ネルギーの導 入支援	市町村支援						5億円 (10年間 総額)
	繰出し支援						
	積立金検討						
		★ 雨喜ヶ峰風力事業廃止					
		新たな再生可能エネルギーの導入検討・可能性調査					
◆地域還元事 業の推進		R4～R5 海洋温度差発電 可能性調査委託業務					
		小水力発電の新規開発地点調査					
	ダム周辺環境整備事業交付金						
	物部川水源の森整備事業補助金						
	公営企業局の森の適切な管理						
		水力発電によるEV充電スタンド設置の検討					

R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
<再エネ利活用事業> R6年度 474 千円(1件:越知町) R1～R6 累計 53,728 千円 ・自治体からの問合せへの対応及びアンケートの実施 ・地域振興積立金への積立てを再開 <一般会計の再エネ関連事業への繰出し> R6年度 - 千円 R1～R6 累計 58,510 千円 ・雨喜ヶ峰風力発電所はR6.5月末で事業廃止となり、 現場の設備撤去工事をR6.10月末で完了。 ・室戸海洋深層水による海洋温度差発電の 可能性調査等委託業務を実施(R5年度)	・再エネ利活用事業は、財源の確保 に向けた積立ての再開など市町村 支援を継続する体制を整えている。	B
<ダム周辺環境整備事業> R6年度 23,366 千円 R1～R6 累計 136,314 千円 <物部川水源の森整備事業> R6年度 4,985 千円 R1～R6 累計 27,229 千円 <公営企業局の森 維持管理> R6年度 582 千円(2.6 ha) R1～R6 累計 1,940 千円(9.3 ha) ・流域自治体のニーズや課題をもとに、EV充電器 設置モデルを検討し、課題整理を実施 ・併せて、杉田PSを活用したEV充電スタンド設置 検討について、R7予算へ計上	・ダム周辺環境整備事業について、 事業変更にも対応し、地域の環境 整備を実施している。 ・流域及び公営企業局の森について 除間伐を実施・支援し、適切な 維持管理に取り組んでいる。 ・水力発電所で発電した電気を活用 したEV充電スタンド設置に向けて 取り組んでいる。	

工業用水道事業

→(黒線)：当初計画 →(青線)：未実施 →(赤線)：延長/追加実施

(1) 工業用水の需要低迷への対応

【評価】 A：順調または妥当 B：概ね順調または妥当 C：要努力 D：要見直し

取り組み名	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	目標	R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
■給水先（給水量）の維持等 鏡川 香南	営業活動						契約水量 28,000 m ³ /日	＜鏡川・香南 合計契約水量＞ R6年度：27,352 m ³ /日 ＜鏡川＞ ・契約水量 24,302 m ³ /日（R6年度） ・高知機械工業団地への給水検討及び新規水需要について、県、市及び各種団体と協議を実施（R3年度） ・既存の大ロユーザーを訪問し、将来需要予測をヒアリング（R1年度） ＜香南＞ ・契約水量 3,050m ³ /日（R6年度） ・香南市との工水事業統合を実施し、川谷刈谷工業団地への給水を開始（R元年度） ・新規契約1者へ給水開始（R7年2月、360m ³ /日）	＜鏡川・香南＞ 大ロユーザーを中心に需要拡大も踏まえた調査等に努めているが、給水量の拡大は困難な状況にある。一方で、香南工水事業においては、R元年度に香南市との工水事業統合を実施し、地域の需要に対して柔軟に対応できる体制を整えており、R7年2月には新規ユーザーへの給水を開始するなど、着実な経営成果を上げている。 また、地場産業（製造業・食品加工業等）への安定給水を通じて地域経済や雇用促進に貢献しており、数値目標にとどまらない公共的意義を果たしている。	B
■更なる事業の効率化 鏡川 香南	効率的な管理体制構築の推進						給水支障 ゼロ（年間）	○管路の漏水への復旧対応 R2年度：1件 R5年度：2件 ○施設の適切・効率的な運営・維持管理 ・使用頻度の低い施設の点検方法の見直しを実施 ・頻度の高い雷害トラブルの対応のマニュアル化 ・直営作業による効率・効果的な維持管理 ・橋梁涵架管点検についてドローンによる遠隔点検を試行（R5年度） ・漏水の影響による地下水源取水停止中に西野水源からの初代替取水・送水を行うことで給水支障を回避（R6年度） ○不具合対応への適切な事前準備（R6年度） ・香南工水の予備ポンプ購入についてR7予算へ計上 ・地下水源の再整備・西野水源から送水状況確認を実施 ⇒R6年度は給水支障ゼロ	＜鏡川・香南＞ ・過去の漏水復旧の記録や振り返り、補修資材の確保など、事故時に迅速に対応できる体制を整えている。 ・運営や維持管理の効率化に向けて取り組んでいる。 ＜香南＞ ・新規ユーザーへの安定給水体制を確立することができた。	B

(2) 施設の耐震・老朽化への対応

取り組み名	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	目標	R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価（内容）	評価
■老朽化施設の計画的な修繕・改良の推進 鏡川 香南	施設の老朽化対策計画作成（長期修繕改良計画の見直し）（適宜、見直し等実施）						優先整備区間の管路更新（R14）	＜鏡川＞ 【R4年度】 ・優先整備区間（配水管路 約1.5km）の更新計画の見直し ・管路維持管理計画（案）の作成 ・ユーザーへの動向調査及び意見交換を実施 【R5年度】 ・ユーザー意見交換会の実施 ・海底配管更新に向けた概略検討の実施 ・優先整備区間の管路更新方針案及び中長期的な事業計画（管路維持管理計画、老朽化対策及び給水料金改定）の策定 【R6年度】 ・優先整備区間への支援に関して国への提言を実施 ・R7年度からの料金改定に向け、国との協議を実施 ・優先整備区間以外の送配水管路について劣化診断を実施 ＜香南＞ ・西野接合弁の耐震工事を実施（R2年度） ・中央ポンプ場における制御関係機器更新に伴い、設備の冗長部分の合理化を実施（R6年度） ＜鏡川・香南＞ 長期修繕改良工事計画の見直しを実施（R4年度）	＜鏡川＞ ・R6年度の管路試掘調査による劣化診断の結果、棧橋方面が次の整備区間として優先度が高いことを確認した。 ・R7年度からの料金改定に向け、着実に手続を進めた。 ＜鏡川・香南＞ 長期修繕改良工事計画の見直し検討・改定に取り組んだ。	B
■地震対策の充実強化 鏡川 香南	震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し（鏡川・香南）						訓練実施（年間を通じて）	・鏡ダムとのダム放流予報連絡についての協議 ・備蓄品の管理と計画の見直し（R5年度） ・震災対応訓練等の実施 職員安否確認訓練（1回）、ｼｬｲﾌﾞﾄﾞﾚｽｼﾝｸﾞ訓練（1回） ・BCP制御所編の継続的見直し作業 ・備蓄品（補修資材）とする対象管径の拡大 【R6年度】 ・「四国4県工業用水道被災時の相互応援に基づく訓練及び実務者研修会」への参加（12月）。 ・香南工水において旧市布設管から県布設管への移行に関して、R7予算へ計上した。 ・水道施設の漏水事例に対し、工水課内で机上訓練を行った。	・震災対応訓練、BCP改定及び学習会を計画・実施し、体制強化に向けた取り組みを進めている。 ・外部の訓練・研修へ参加し、対応力の強化及び他自治体との連携強化を図っている。 ・備蓄品（補修資材）については適切な管理を行うとともに、早期復旧が可能となるような必要な補修資材の見直し等を行い計画的に購入した。	A

共通事項

→(黒線):当初計画 →(青線):未実施 →(赤線):延長/追加実施

(1) 組織体制の強化と人材育成

【評価】 A:順調または妥当 B:概ね順調または妥当 C:要努力 D:要見直し

取り組み名	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	目標
■若手職員の 教育の充実と 能力向上の取 組み支援等	OJTの強化						資格取得 1名以上、 講習等 50名以上 (年間)
	資格取得推奨、各種技能講習・特別教育の受講						
	外部研修の受講						
	局内発表会の開催と外部発表の推進						
	他県との交流による技術力向上の推進						
	組織体制強化に向けた検討						
■震災対応訓 練の充実	各種震災対応訓練の実施とマニュアル等の見直し						訓練実施 (年間を通 じて)
	備蓄品の購入・管理(鏡川)						
	非常時の通信手段の確認・点検						

R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	評価
○R6年度の実施状況 ・電気取扱業務に係る特別教育等のOJTの実施 ・資格取得者、技能講習・特別教育修了者 計39名 (ダム管理主任、ダム水路主任、危険物取扱者、特別管理産業廃棄物責任者講習ほか) ・免許更新等 計8名 ・外部研修(Web受講を含む) 計28名 ・局内技術研究会発表会の開催(9月) ・他県公営電気事業者との技術職員交流事業の実施(10月、1月) ※神奈川県へ2名派遣(10月) ※神奈川県から2名受入(1月)	・若手職員の特別教育及びOJTを実施できている。 ・毎年、資格取得の奨励等を積極的に推進しており、一定数の職員が資格取得できている。 ・局内技術研究会発表会により職員の知識・技術力の底上げを図っている。 ・技術職員交流事業への参加により、能力向上と他県交流を推進している。	A
○R6年度の実施状況 ・各種震災対応訓練等の実施 ※電気事業[(3)災害に強い体制の整備]等参照 ・災害対策に関する運用要領の改正(R7.2月) ・〈発管〉震災対応マニュアルの改正／臨時情報編の改正(R7.3月) ・〈制御所〉BCP制御所編の継続的見直しを実施 漏水事故対応訓練を実施(R7.2月) ・備蓄物資・燃料の確認・補給	・各事業所において多様な訓練を継続的に実施し、職員の対応力の維持・向上を図っている。 ・関連する規程等の変更や、各所の状況に応じて、適宜マニュアル等をアップデートしている。 ・漏水補修金具などの貯蔵品や備蓄品の準備を進めており、非常時に備えた取り組みを行っている。	A

(2) 経営の効率化

取り組み名	R5年度 (2023)	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)	目標
■発注の工夫等による経費の削減の推進	経費削減の推進						—
■民間活用による効率化等の検討	民間活用による効率化等の検討						—
	全国的な標準プラットフォーム等活用の検討						
■新技術の活用による効率化の検討	DX化による業務効率化の検討・実施						新たな効率化手法の導入1件以上(R10)
	(施設保守管理におけるテクノロジーの新たな活用検討・実施) (日常業務におけるオンラインネットワーク活用の推進)						
	発電施設ITV更新工事						

R6年度までの取り組み実績	進捗状況と評価(内容)	評価
・必要に応じて複数箇所での施工を集約する等して工事発注方法を工夫した。 ・競争性が十分発揮できるような入札等となるよう、発注範囲等を工夫した。	品質の向上と経費削減に向けた取り組みを推進している。	—
・PPP/PFI事業等の情報収集 ・県内外のFIT終了後の風力事業に関する情報収集等の実施	民間活用の検討や他事業者の取り組み状況の把握、標準プラットフォーム等の情報収集を行っている。	—
・他県事例等の情報収集 ・直営点検作業におけるドローンや遠隔通信端末(スマートフォン、タブレット)の活用、Webカメラによる設備の遠隔監視 ・局内ドローン研修会の実施(R4年度、2回) ・ドローンを使用した点検委託の試験的な実施 ・テレワーク及びWeb会議の実施 ・発電施設のITV(監視カメラシステム等)更新工事の実施 【R6年度】 ・Webカメラによる監視システムの拡充(直営) ・2024水道展に参加し最新情報の収集に努めた。 ・点検記録及び設備台帳等のDX化に関する情報収集を行った。 ・業務効率化のための生成AI勉強会を実施 ・超過水量算定について半自動化を図った。 ・紙媒体の各種完成図書について電子化を行った。(工水事業)	・新技術の活用に向けて、事例収集及び技術習得を推進し、実機を使用した取り組みを行っている。 ・業務効率化の検討のため、ドローンを使用した点検委託を試験的に実施した。 ・局外会議などでは積極的にWeb会議システムを活用している。 ・発電施設の監視カメラシステムや通信ネットワークを活用して、スマート保安化に努めている。 【R6年度】 ・発電所施設の監視システムの充実を図り、保安体制を強化することができた。 ・IT、情報技術による業務効率化を図るため、取り組みを進めている。	A